

	「人は学ぶ」	6月号 平成30年6月6日 発行者 惣田 修一 編集 菊池 知裕
	「人は変わる」	
	「人は輝く」	

ロンドン観光

校長 惣田 修一

今から23年前、トルコ共和国イスタンブール日本人学校に赴任中、私の父母が日本から遊びに来た時のことです。父母を連れてロンドン観光に行きました。まずは、ロンドンの街並みを観光しようということになり、ロンドン名物の2階建てオープントップバス（屋根のないバス）に乗ることにしました。バスツアーは現地のツアーガイドと日本語ガイド付きのものと2種類ありましたが、日本語ガイド付きのバスは切符代が高かったので、現地ツアーガイド付きの切符にしました。父母には、「ツアーガイドさんは英語だけど、僕が通訳して説明するから、大丈夫。」と言って、自分の子供2人を含めて6人でバスに乗り込みました。ちなみに私は英語科の教員です。



バスは出発して、ウェストミンスター寺院やビッグベン、ロンドンアイなど、雑誌やテレビで見たことのある場所を次々と走っていきました。現地ガイドさんは、途切れることなくそれぞれの建造物について詳しい説明をしていました。私は真剣に耳を傾け聞こえてきた英語を日本語訳して、父母に説明しようと思いました。ところがその時に問題が発生しました。ガイドさんのしゃべる英語がほとんど聞き取れない、早すぎて全くついていけなかったのです。父母に説明するどころか、自分でもさっぱり内容がわからなかったのです。

それでも、バスガイドさんの流暢な英語は途切れることはありません。目の前には次から次へと世界的に有名な観光名所が登場してきます。父と母は私の口から出てくる解説を今か今かと待ちかまえていました。

やがて、言葉につまってこまっている私の様子をさっしてか、母が「バスの2階は気持ちいいね。」とか「あの建物きれいだね。」と、私にむかって笑顔で話しかけてきました。父もそれをきいてうなずいていました。私は、歴史のつまっている建物のほうを見ながら、「そうだね、あれが有名なビッグベンだね、すごいね」ぐらいのことしか言えず、何も説明してやれない自分を恥じるばかりでした。もはやガイドさんの英語はBGMとなってしまいました。そして、私の心は折れました。

父母は、「日本を離れ十数時間かけて、息子や孫のいるトルコを訪れ、そこからさらに息子家族とともにロンドン観光をする」という今回の旅行を心から楽しみにしていました。日本にいる時、日本人学校に私たち家族4人で行くことをやっとの思いで受け入れ、涙を必死にこらえながら成田で私たちを見送って以来、久しぶりの再会だったからです。

そのことがわかっていただけに、私は自分の英語力のなさにとても情けない気持ちになりました。英語の教員となり、もうすでに英語を十数年教えてきたにもかかわらず、一番大事な時に、今こそ最大の親孝行ができるはずだったのに、父母に「さすが私の息子」って思ってもらえる最大のチャンスだったのに、全部の思惑が音を立ててくずれ落ちていきました。「もっともっと英語を深く勉強しておくべきだった。」 そう思わざるを得ませんでした。

「なぜ勉強しなければいけないのか。」それは、将来の自分のためです。でも、それだけじゃない。自分にとって一番大切な人に、幸せを与えたり、楽しい気持ちにさせたり、時には病気や命を救ったり、いろんなことができるようになるからではないでしょうか。「勉強が大切だ」ということをしっかりわかる人になってほしいと思います。

もうすぐ定期テスト、しっかり集中して勉強していきましょう。

運動会を振り返って

運動会実行委員長 米坂 明洋

平成30年5月26日、絶好の運動会日和の中、第71回運動会が行われました。生徒たちは、「龍攘虎搏 ～戦え 出そろった強者たちよ～」のスローガンのもと、全力で取り組みました。2週間という短い練習期間ではありましたが、生徒一人一人がクラスや係活動で一生懸命準備をしてきた成果が表れた運動会になったと思います。



午前の部、最後に行われた3学年女子による「Rising」、全学年女子による「よさこい北の魂」、そして全学年男子による「南中ソーラン」、多くの時間を費やし迎えた本番、緊張している様子もありましたが、それぞれに練習の成果を発揮し、美しくも迫力のある演技を行うことができました。

午後の部では、午前と変わり団体種目がメインとなり、クラスの力が試される場となりました。生徒会種目の「大縄」では、各クラスともその力を存分に発揮し、3年生の部では歴代記録に後一步と迫る95回を記録しました。

この他にも「全員リレー」に「いかだ流し」（1年生）、「ハリケーン」（2年生）、「大ムカデ」（3年生）といった学年種目、そして「選抜リレー」が行われ、各クラスの意地と意地がぶつかり合い、非常に白熱した運動会となりました。



また、一日をとおしてすべての種目に全力で取り組み、多くの感動を与えてくれた10組。今年度は「大ムカデ」に挑戦し、3年生と白熱した競争を繰り広げました。10組の取り組みは、多くの人に一生懸命取り組むことの素晴らしさを伝えてくれたように思います。

最終的に得点競技ですので順位はつきませんが、生徒たちが運動会の練習や取り組みをとおして、集団のまとまりと、自分が担った役割を責任を持って実行する力を高めることができた点が、勝ち負け以上に大切なことではないかと思えます。生徒にはこの運動会をとおして高めた力を、これからの学校生活に生かし、より良い大泉中を築くためにこれからも努力し続けていってほしいと願っています。

最後になりましたが、来賓、地域、保護者の皆様におかれましては、早朝から応援に駆けつけていただきましたこと感謝致します。生徒もたくさんの方々に見守られ、全力を尽くし、また1つ中学校生活の思い出を築くことができました。生徒、保護者、地域、そして教職員が丸となり運動会を成功させることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。これからも大泉中の教育活動に対しご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

3学年主任 広瀬孝平

3学年では、「Do my best (全力) Hand in hand (協力) Never give up (努力)」の学年目標のもと、練習から取り組んできました。生徒達は、中学校生活最後の運動会を悔いの残らないように取り組むことができ、見ている人たちを感動させる運動会を作り上げてくれたことを誇りに思います。

<Do my best 全力>

どの生徒も一生懸命に手を抜くことなく、全力で走り、全力で演技をしていました。特に、私が感動したのは男女のダンスです。

女子のダンスでは、3年ダンス係を中心とした各クラスオリジナルのダンスと担任の先生にまつわるかけ声で、しなやかで美しいダンスを見せてくれました。男子のダンスでは、今年初めて「大中ハカ」に取り組み、大きな声とダイナミックな動きで力強さと迫力のあるダンスを見せてくれました。「全力はカッコイイ！」まさにその通りでした。

<Hand in hand 協力>

どのクラスも仲間に対して大きな声で応援をしていました。特に、リレーや個人種目、学年種目で最下位になったクラスや選手にたいして温かい声援を全員が送っていた姿に感動しました。また、



失敗をしてしまい、涙する仲間を勇気づける声かけや、怪我をしてしまった仲間を助ける姿もありました。スポーツにおける「リスペクトの精神」とはまさにこのことだと実感しました。また、大ムカデではどのクラスも予行のタイムを大幅に更新し、大縄跳びでも各クラス自己ベストを記録しました。どのクラスも協力の成果が表れました。

<Never give up 努力>

最後まで諦めない姿勢に感動しました。特に、1000m、1500m走では、諦めることなく、苦しさに耐え、最後まで走る姿がありました。ゴール付近でのラストスパートには、決して諦めない強い心の大切さをあらためて感じました。また、各係においても最後まで自分の仕事に責任をもって取り組んでいました。放送係では、途中放送器具のトラブルがあったにも関わらず、その後落ち着いてアナウンスを最後までやり遂げることができました。



3年生の今年の運動会は、常に「最高学年として」が求められる運動会でした。練習では、集合などでどの学年よりも早く整列し、後輩達に手本となる姿を見せることから始まりました。最初の練習では、自覚が足りず、リーダーの体育委員の声かけも頼りないものでした。しかし、練習を重ねていくにつれ、リーダーの体育委員の

顔つきが変わり、声かけにも自信がついてき、それに比例するように、他の生徒も整列だけでなく、入場行進やラジオ体操、ダンス練習などで「先輩らしい」行動が増えてきました。

また、練習だけでなく、各係の仕事においても、3年生がリーダーシップをとり、自ら進んで行動することができていました。前日準備では、係生徒だけでなく部活動の生徒も加わり、遅くまで準備をし、美しい会場をつくってくれました。すばらしい運動会の成功には、そういった陰の努力がありました。



3年生は、今後あらゆる行事や活動において常に「中学校生活最後」という言葉がついてきます。今回の運動会のように、つねに学年目標の「全力」「協力」「努力」を意識して取り組み、最高学年として大泉中の伝統を引き継ぎさらに発展させ、そこから多くのことを学び、大きく成長してほしいと思います。

すばらしい運動会を「ありがとう！3年生！」

(※大ムカデのためのストック回収のご協力ありがとうございました。おかげさまで、大きな怪我もなく競技を実施することができました。本当にありがとうございました。)

2学年主任 渡辺洋子

5月26日(土)に行われた大泉中学校の運動会、2年生は大泉中の生徒として迎える2回目の運動会でした。運動会に向けての練習期間は2週間でしたが、天候が悪い日もあり、短時間集中での練習になった種目もありました。十分な練習時間をとるために、効率よく行動することが求められることも多くありましたが、生徒たちも「今やるべきことは何か」を自分たちで考えて動くことができていました。さすが、2年生です。



○ダンス

今回のダンスに取り組むのは男女とも2回目であり振り付けなどはわかっているところからのスタートでした。そんななか練習では、3年生を支えつつ1年生の手本になる立場でした。女子は3年生が学年ダンス「Rising」の練習をしているときに、「よさこい北の魂」の練習で1年生に見本を見せつつひっぱりました。男子「南中ソーラン」でも、全校での迫力あるダンスをみんなで作り上げました。男女とも去年より一段とダンスの技術も上がり、頼もしい姿を見せてくれました。

○学年種目

今回の運動会で初めて取り入れられた種目「ハリケーン」。走っているメンバー以外も常にバーの動きを注視し、声をかけ合いバーを飛び越えくぐる。緊張感の必要な競技でした。クラスの団結力が勝敗のカギを握るなか、クラスみんなで真剣にそして楽しそうに取り組む2年生の姿を見ることができました。



○全員リレー

昨年度、失格となってしまったクラスが多数出てしまいとても残念な思いをしました。今年度はどのクラスも、「失格しないように頑張ろう!!」という思いで団結をし、この種目に臨みました。結果は“失格なし!!”クラスで、気持ちをあわせて競技を行ったことが晴らしい結果につながりました。

これらの種目以外にも、個人種目、生徒会種目など、どれをとっても生徒みんなが真剣に取り組み、仲間の応援をし、そしてお互いに協力をする。そんな姿をととてもたくさん見せてくれました。また、準備、運営、片付けを行う部活、委員会の活動でも、たいへんな仕事にもかかわらず、担当の仕事を一生涯懸命行い、運動会を支えてくれました。

練習期間から当日まで、運動会に向けて頑張った生徒たちの姿を、保護者の皆様、地域の皆様に見ていただけたこととてもうれしく思っています。ご参観ありがとうございました。これからも、生徒たちのよりいっそうの成長を期待し、少しでもその手助けができればと思っています。

新たな挑戦



担当 教諭 東海林 静江

『レインボー ～31人31色～』今年の10組の活動スローガンです。一人ひとりの個性を生かし、団結力のある10組を創っていこう!という思いを込めて決めました。そして迎える運動会…先輩たちの築いてきた10組の伝統を受け継ぎ、新しいことへ挑戦していこうと、3年生の学年種目「大むかで競争」への出場を決意。31人が誰ひとり経験したことのない競技に挑戦するというのは、10組にとって一大決心です。

新しいことに挑戦しなければ、失敗も避けられるかもしれません。

しかし、今の10組に必要な力は、あきらめない力・仲間と団結（協力）する力・新しいことへ挑戦していく力です。大むかで…「1. 2」の声と足が合わず、一步も進めない状況からのスタートでした。大縄とび…「せーのー イチ」で引っかかり、一回も跳べない日が続きました。落ち込んでどうにもならない日もありました。が、練習を重ねるにつれ「がんばろー!」「集中して!」「足を上げて!」「みんなで声だそー!」と3年生たちの声がけに変化が現れ、皆の意識も競技に集中するようになってきたのです。運動会当日、大縄跳びは35回の10組新記録!大むかでは、練習から2分以上タイムを縮めた2分56秒でゴール!生徒たちから自然と沸き上がった拍手と笑顔に、達成感があふれていました。

男女伝統のソーラン節とよさこいソーランでは、通常学級の2. 3年生が10組の練習に参加して教えてくれるなど、行事を通して自然な形で交流活動が行われている大泉中学校です。これからも様々な場面で切磋琢磨し合う関係を築いていきたいと思います。



総合優勝

- 1年生 7組
- 2年生 2組
- 3年生 3組

